

サケ・マス遡上へ簡易な魚道

余別新川、木材など活用

積丹町 樽商大名誉教授ら開発

【積丹】町は、町余別町の集落を流れる余別新川の河口部に、サクラマスやサケが遡上できる簡易型の

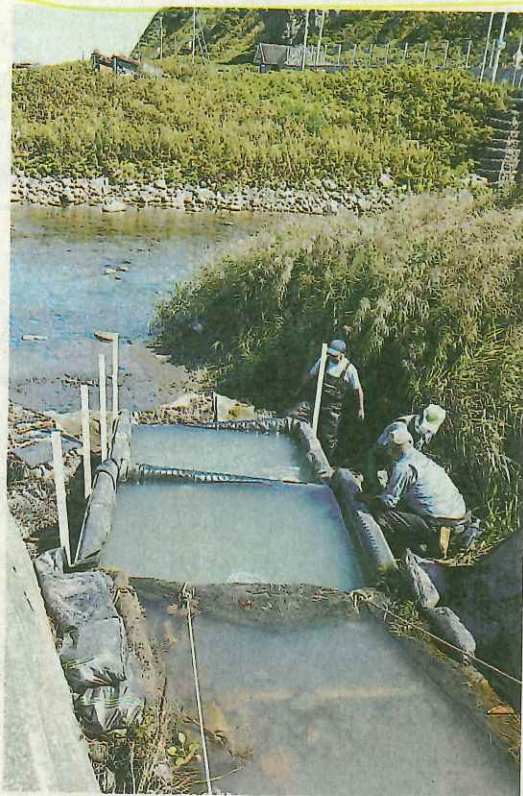
階段式魚道を設置した。コンクリート製魚道と違い、木枠や遮水布などを使って組み立てられ、不要になれ

ば撤去可能。材料費は約150万円で、コンクリート製魚道の5分の1から10分の1という。開発に取り組んだ小樽商大の八木宏樹名誉教授（海洋生物学）は「簡易型魚道を全道に広め、サケ・マス類の遡上を増やしたい」と期待する。

り、サケ・マス類が上ることとはなかった。河口から約500mはコンクリート3面張りの水路で魚も生息していなかった。

「余別新川にサケとサクラマスを遡上させたい」という町の委託を受け、八木名誉教授が札幌や道外の企業と2015年度から魚道の開発を始めた。

木枠とプラスチック製の網に河原の石を詰めて造った階段状の土台の上に、遮水布を敷いて製作。毎秋ごとに改良を重ねた。5年目となる本年度はサケ類が飛び越えやすいように段差を約40センチ、3段にした。飛び越える時に脇の草むらに落ちて死ぬ魚が出ないようにフェンスをつけた。



9月中旬に設置した。余別新川は余別川の支川で長さ約2キロ。余別川との合流部は約2段の段差がある。余別新川の河口に設置された簡易型の階段式魚道

コンクリート3面張りの水路の川底に砂利を敷き、石を詰めた遮水布で深さの

あるよごみを作り、遡上したサケ・マスが産卵できるようにした。

今秋は産卵可能な場所に

監視カメラを置き、遡上したサケ・マスの産卵の有無を調べる。八木名誉教授は

「成功すれば春にはサクラ

マスの稚魚が海に戻り、3年後の春には親となったサクラマスが遡上する」と期待している。（川村史子）